

## 第4章 市の地理的、社会的特徴

市は、国民保護措置を適切かつ迅速に実施するため、その地理的、社会的特徴等について確認することとし、以下のとおり、国民保護措置の実施に当たり、考慮しておくべき市の地理的、社会的特徴等について定める。

### (1) 地形

市は、広島県の南西部に位置する瀬戸内海に面した気候温暖で自然環境に恵まれた都市であり、島、岬、湾入、河川、平地、山地など複雑な地形をしている。

市域面積は 352.80 km<sup>2</sup>で、市域の半分は本土に位置しているが、東から野呂山(839m)、白岳山(358m)、灰ヶ峰(737m)、休山(497m)、茶臼山(283m)、天狗山(292m)などの山々によって安浦、川尻、仁方、広、阿賀、中央、吉浦、天応、昭和など各地区に細分され、平坦地は少なく、海まで張り出した山塊によって市街地が分断された特異な地形をしている。

また、倉橋島、下蒲刈島など島しょ部を含めた海岸線延長は、298.3 kmに及び、西日本有数の多島美を有する風光明媚な地勢を有している。

さらに、この狭あいな平坦地を西から二河川、堺川(中央地区)、黒瀬川(広地区)の主要河川が貫流し、その他各地区の小溪流は、地形の特質から急こう配の溪谷となり、川幅も狭く、全長も非常に短いものとなっている。

### (2) 気候

市の気候は、瀬戸内気候の典型的なもので年間を通じて概して温和である。年の平均値は、気温 15.9℃、湿度 68%、風速 2.0m/s となっている。

また、夏冬を通じて晴天の日が多く、年間の降水量の平均値は、1,435 mm程度で、山陰地方の 2,000 mm、四国太平洋側の 2,500 mm程度に比べると 500 mm~1,000 mmも少ない。

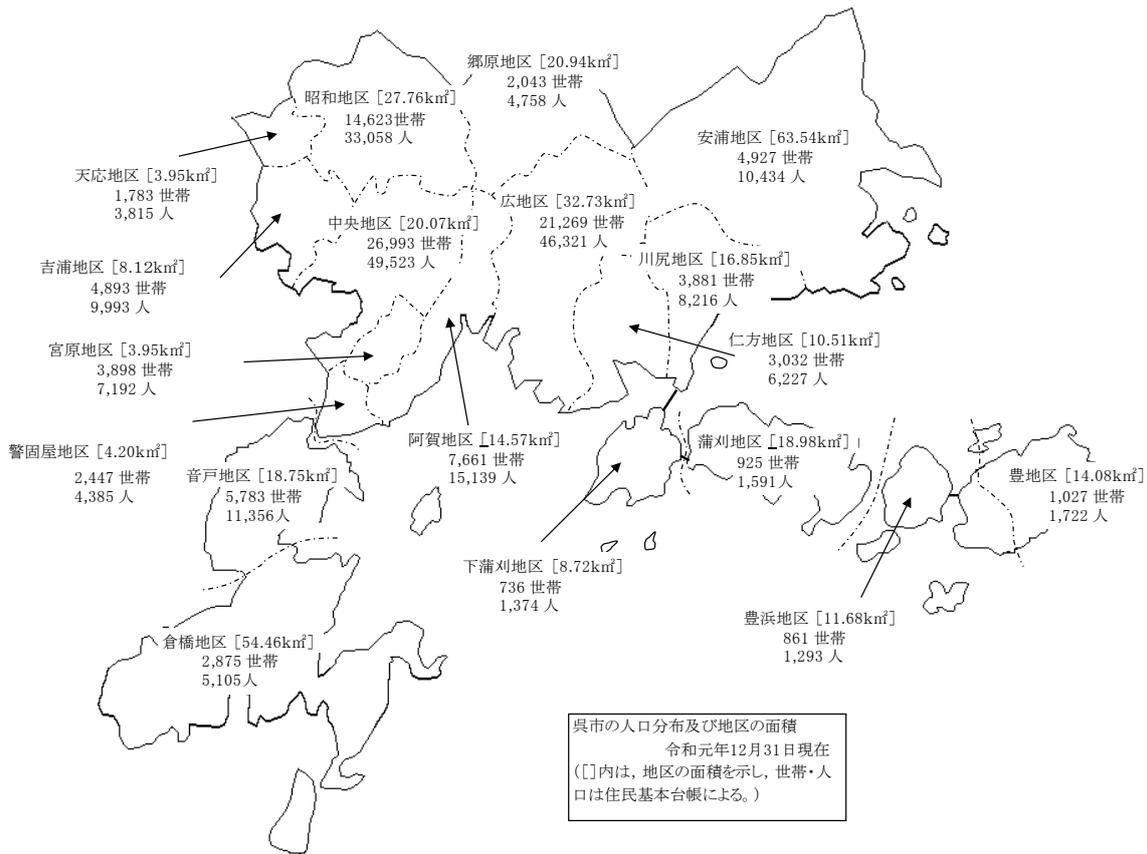
### (3) 人口分布

市の人口は令和元年 12 月 31 日現在 221,718 人で、世帯数は 109,742 世帯となっており、人口密度は 1 平方キロメートル当たり 628 人となっている。

人口を地区別にみると、最も多いのは中央地区の 49,523 人で市人口の約 22%を占めている。

次に、東部の広地区 46,321 人で市人口の約 21%を占めており、続いて、北部の昭和地区で 33,138 人の約 15%となっており、総人口の約 58%がこの 3 地区に分布されている。

※ 人口・世帯数は、住民基本台帳(令和元年 12 月 31 日現在)による。



#### (4) 交通網

市の道路網は、広島市と市とを結ぶ一般国道 31 号が北西に延びており、両市を結ぶ幹線道路としての広島呉道路（クリアライン）は、一般国道 31 号の交通渋滞を解消し、市とその周辺地域の発展を促すため、重要な役割を担っている。

また、市中心部と東部地区とを結ぶ一般国道 185 号、市と東広島市とを結ぶ一般国道 375 号、東広島・呉道路、さらに、市から江田島市までを結ぶ一般国道 487 号で主要幹線を形成している。

#### (5) 鉄道・港湾

ア 鉄道は、JR三原駅から市を經由してJR海田市駅までの間の沿岸部をJR呉線が通っている。

イ 重要港湾である呉港は、瀬戸内海のほぼ中央に位置し、四国、周辺島しょ部を結ぶ海上交通の要衝として、また、鉄鋼、造船、機械などの臨海工場群を背景とした工業港として重要な役割を果たしてきた。



(6) 自衛隊施設等

ア 米軍施設

米軍の施設は、広弾薬庫、呉第六突堤及び灰ヶ峰通信施設が所在している。

イ 自衛隊施設

自衛隊施設は、呉地方総監部、第1潜水隊群司令部、第4護衛隊群司令部及び練習艦隊司令部が所在している。なお、各施設は次のとおり。

【自衛隊施設一覧】

(令和元年12月31日現在)

① 呉教育隊	⑪ 灰ヶ峰無線中継所
② 呉史料館	⑫ 係船堀地区
③ 大麗女弾薬庫	⑬ 呉警備隊
④ 呉上陸所	⑭ 呉潜水艦基地隊
⑤ 呉補給所貯油所	⑮ からす小島係留所
⑥ からす小島訓練場	⑯ デッカ陸上局(横島)
⑦ 港務部第三区	⑰ 呉音楽隊
⑧ 呉地方総監部	⑱ 呉自衛官募集センター
⑨ 膳棚山受信所	
⑩ 呉通信隊焼山送信所	